

公開シンポジウム
「世界の高大接続の現状と課題」
日本学術会議 心理学・教育学委員会 高大接続
を考える分科会

高大接続の視点から見た初年次教育 の動向と新入生のプロフィール

2022年3月12日

同志社大学

山田礼子

アウトライン

- 1. 高大接続と初年次教育の役割
- 2. 初年次教育学会の動向
- 3. 高大接続の基本情報となる新入生のプロフィール：継続調査から

高大接続と初年次教育の役割

2008年初年次教育学会の設立の趣旨

- 初年次教育は1970年代後半から80年代前半にかけて、アメリカの多くの高等教育機関で導入され、学生の中退率抑制や学生の“成功”に有効な教育プログラムであることが評価され、現在では世界20カ国以上に広がっています。その背景として、高等教育のユニバーサル化の進行に伴い、多様な学生が高等教育に進学するようになる一方で、卒業時の質保証が求められるようになり、入学した学生を大学教育に適応させ、中退などの挫折を防ぎ、成功に水路づける上で初年次教育が効果的であるという期待や評価が高まっているからです。中略
- 初年次教育の理論、教育内容、教育方法、評価法といった初年次教育に直結する内容はもとより、青年期の適応、高校から大学への移行、専門教育との接続といった「移行」に関する研究、キャリア教育、サービ斯拉ーニング等の初年次教育と隣接する教育プログラムも対象としていくことを考えています。

日本における高大接続と初年次教育との関係

- 初年次教育は、設立当初から高校から大学への移行を研究、実践の対象としてきた。
- 高等教育のユニバーサル化に伴う多様な学生の入学を前提とし、学生が大学教育に円滑に移行することを目的とする。
- 科目試験だけではない入学試験の多様化も視野にいれて初年次教育はその機能を整理してきた経過がある。
- 教育内容では、高大接続、非接続を視野にいれて様々な教育内容、方法をカバーしてきている。
- 教育方法・内容の高大接続も対象としていることから、初年次教育の内容も高校での学習を反映して変容している。

初年次教育を巡る社会的状況

◆初年次教育の急速な広がり背景

①学生の変容 高等教育への進学率2019年過去最高
58.1%(大学53.7% 短期大学4.4%)、専門学校23.8%

②政策的側面の変化＝すなわち大学がより教育を重視する場へと変革させるような政策の存在

初年次教育においては2008年「中教審答申案」で初年次教育プログラムとして言及

③社会から求められる教育効果の提示
アウトカム評価導入への動きも

④2014年高大接続答申においても初年次教育の充実が政策としても位置付け

高大接続システム改革会議と初年次教育

- 主体性を持つ多様な学生の入学・在学を前提として、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとも関係し合う初年次教育を、カリキュラム編成、学生の学修方法・学修課程の在り方等に具体的に位置づけること

高大接続システム改革会議「中間まとめ」案

- 多様な入学者のそれぞれが自ら学修計画を立て、学修の実践に入っていくための初年次教育を具体化すること

平成27年9月15日 高大接続システム改革会議「中間まとめ」

- 大学教育へ円滑に移行するための初年次教育の充実

平成28年3月31日 高大接続システム改革会議「最終報告」

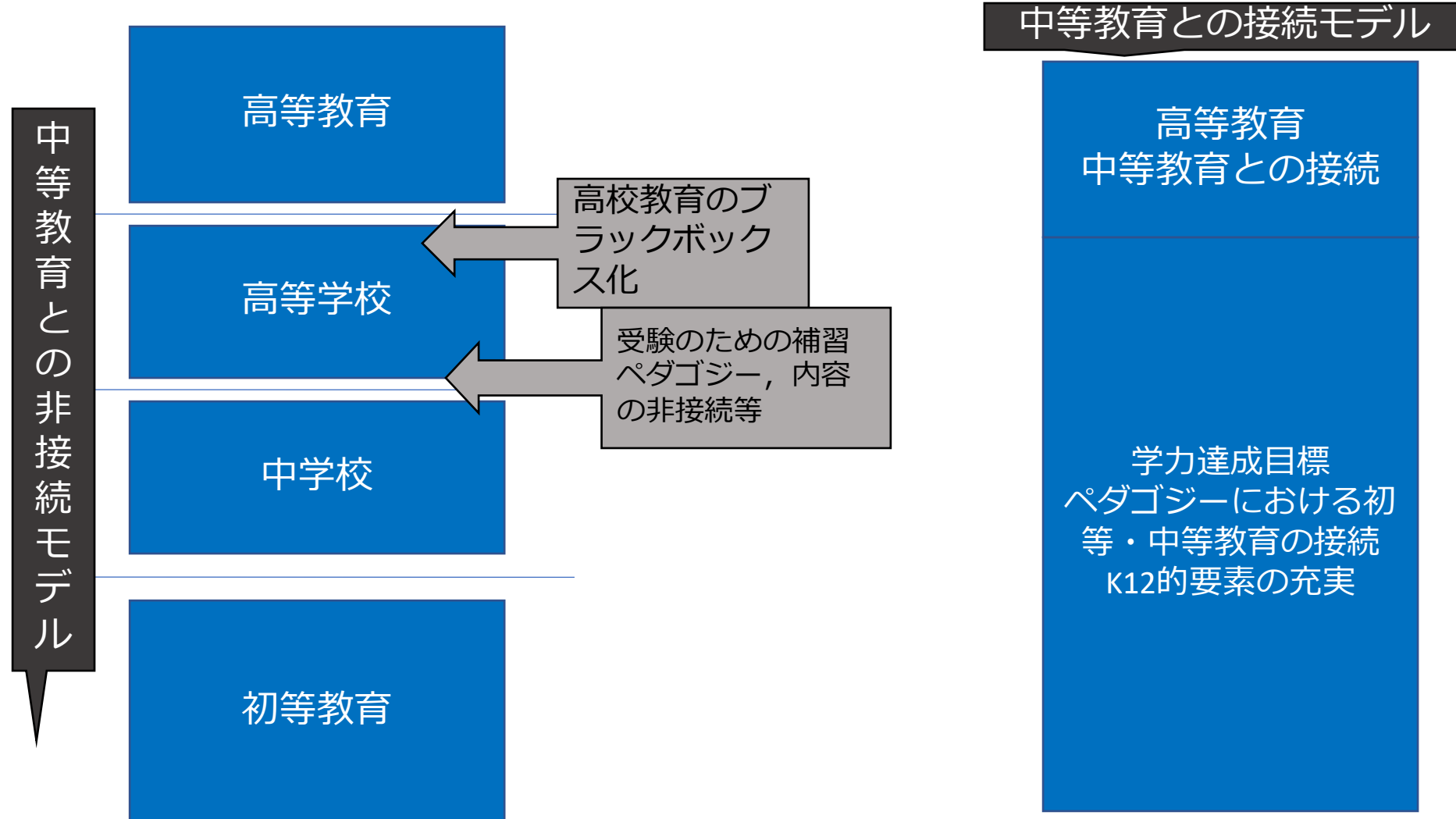
教育制度からみた高大接続

- 学生確保という視点
オープンキャンパス、体験授業、高校出張授業
関係する高校の系列化、連携高の増加
- 高校から大学への移行という視点
不本意入学者を減少させるための入学前教育
- 3つのポリシーを確立させるという視点
高大接続から、ディプロマポリシーを実現するためのカリキュラム
へとつなげる総合的初年次教育

語られてきた学習内容、ペダゴジーにおける中等教育との非接続問題

- ◆入試と学力という問題 ⇒ 高大接続改革でどうなるか？
- ◆高校までに学ぶ方法と内容の接続性は？
 - 特に高校＝知識注入型受動的学習
 - ＝受験への対処＝地方公立進学校、
中堅公私立進学校に多い
 - 例・小論文＝大学で要求する分析型、
問題発見型、問題解決型、探求型とは異なる。
事実認識型、感想型、要約型
 - 少ないプレゼンテーションの機会、
論理力涵養、問題発見、解決の機会

非接続モデルと接続モデル



問題の所在

- 2016年3月の学校教育法施行規則に伴い、学位プログラムを単位としてDP)、教育課程編成の方針CP)、AP) の3つのポリシーを見直し、同年3月末までに公表することが義務化された。こうした経過を経て、

- ① 3つのポリシーの中で初年次教育はどのように取り扱われているのか、初年次教育の内容はどのように変遷しているのか
- ② 高大接続から見た場合、近年いかに初年次教育を位置づけるべきなのか
- ③ 日本の大学における初年次教育の普及は、高大接続のどのような問題から生じていると考えることができるか

本シンポジウムでの 目的

- ① 2017年度初年次教育学会の会員調査から3つのポリシーと初年次教育の関係は何かを検討
- ② 初年次教育学会の近年の発表内容等から初年次教育として関心がもたれてきているのか、扱う内容に変化がみられるのかを検証
- ③ 高大接続という視点から見た場合に新入生データを分析することで新入生のプロフィールに変化があるのか、ないのかを継続しておごしこなってきた新入生調査データから検討

初年次教育学会の動向

初年次教育学会設立約2008年～2013年までの初年次教育の領域

- ▶ ①スタディ・スキル系
(レポートの書き方、図書館の利用法、プレゼンテーション等)
- ▶ ②スチューデント・スキル系
(学生生活における時間管理や学習習慣、健康、社会生活等)
- ▶ ③オリエンテーションやガイダンス
(フレッシュマンセミナー、履修案内、大学での学び等)
- ▶ ④専門教育への導入
(初歩の化学、法学入門、物理学通論、専門の基礎演習等)
- ▶ ⑤教養ゼミや総合演習など、学びへの導入を目的とするもの
- ▶ ⑥情報リテラシー
(コンピュータリテラシー、情報処理等)
- ▶ ⑦自校教育
(自大学の歴史や沿革、社会的役割、著名な卒業生の事績など)
- ▶ ⑧キャリアデザイン
(将来の職業生活や進路選択への動機づけ、自己分析等)

当時の初年次教育が直面していた課題とその後

- 受業としての初年次教育は、オリエンテーションやガイダンス、スタディ・スキル系、情報リテラシー、専門への導入は初年次教育の内容として定着
- スタディ・スキル系、情報リテラシー、専門への導入、学びへの導入に加えてキャリア・デザインも正課内での初年次教育として位置づけられていた。
- 学びへの導入、ステューデント・スキル系、自校教育を初年次教育として位置づけている比率は低下
- 専門教育への導入教育として初年次教育が提供
- 当時の課題＝研究および評価から政策ならびに実践にいたる結びつきが弱い、カリキュラムのつながりと評価および全体的なカリキュラムとの連続性が弱い等が散見→3つのポリシーの義務化により大きく変化

2017年会員調査から見た初年次教育と3つのポリシーとの関係

- 調査：2017年5月～6月 初年次教育学会会員 個人会員559、機関会員92校、賛助会員20社を対象にWEB調査を実施、最終回答数：172

- 質問：自大学の3ポリシーは体系的に整備できているか

「思う 49.4% 思わない31.4% わからない19.2%」

- 質問：CPの中で初年次教育について言及されているか

「されている44.8%、わからない19.2%、されていない36.0%」

初年次教育の教授内容

<u>%</u>	<u>全学共通教育</u>	<u>学部・学科ごと</u>	<u>担当教員の裁量</u>
ライティング	69.8	72.3	66.7
自校教育	36	31.3	40.7
学習技術	74.4	77.1	74.1
プレゼンテーション	69.8	73.5	66.7
キャリア教育	54.7	47	48.1
リサーチスキル	39.1	32.5	29.6
ソーシャルスキル	55.8	55.4	51.9
リメディアル教育	20.8	27.7	22.2
合計数	86	83	27

- ・ライティング、プレゼンテーション、学習技術が御三家
- ・ライティングが新教授内容として定着

初年次教育の形態

	度数	%
学習技術型	53	30.8
専門導入型	23	13.4
総合型	68	39.5
人間関係型	17	9.9
あてはまらない	11	6.4
合計	172	100.0

- ・初年次教育はC Pに着実に位置付けられつつある。
- ・学習技術型と総合型が基本的類型 総合型が定着しつつある

表3 各大会の講演・シンポジウム等のテーマ

大会	形式	テーマ
第1回	基調講演	日本の初年次教育の展開—その現状と課題—
第2回	シンポジウム	高大接続からみた入学前教育
第3回	シンポジウム	初年次教育のリアリティから教育の質保証を考える
第4回	大会企画シンポジウム	初年次教育と協同教育をつなぐ：理論と実践
第5回	大会企画シンポジウム	初年次からの多様な学生支援と教職協働
第6回	シンポジウム	初年次教育から始めるキャリア教育
第7回	記念講演	シンプルプレゼンのすすめ
	大会企画フォーラム	自己表現：表現から実現へ〈造形〉〈演劇〉〈文章〉
第8回	公開シンポジウム	変わる初中等教育の学びと大学初年次教育
	基調講演	未来に生きる人々のために
第9回	特別講演	初年次教育を活用した学生確保のあり方
第10回	大会企画シンポジウム	初年次教育と学生コミュニティ—授業内外で育む学びの成長—
	基調講演	流動化する現代社会，固定化する仲間集団—学生コミュニティをめぐる今日の課題—

杉谷祐美子作成表 「初年次教育研究の動向と課題：初年次教育学会における研究活動を中心に」 『進化する初年次教育』 2018年13頁より再掲

動向：

初期は制度や政策とかかわるマクロレベルでの課題→機関による組織的取り組みや授業実践の報告→教育方法や教育デザインに関する課題などミクロレベルでの関心に移行

(杉谷祐美子表の説明記述より抜粋)

表4 自由研究発表のテーマ別件数の比率

大会	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	計
プログラム内容／授業デザイン	19.4%	37.3%	14.8%	17.2%	9.1%	11.8%	15.7%	21.6%	21.3%	5.8%	17.4%
教育方法	33.3%	13.7%	20.4%	19.0%	15.9%	7.8%	29.4%	11.8%	23.4%	30.8%	20.2%
ライティング／スキルズ	27.8%	5.9%	18.5%	15.5%	20.5%	29.4%	33.3%	29.4%	17.0%	21.2%	21.6%
学士課程教育	13.9%	25.5%	24.1%	10.3%	25.0%	25.5%	11.8%	19.6%	6.4%	17.3%	18.0%
高大接続／入学前教育	2.8%	19.6%	25.9%	25.9%	15.9%	9.8%	2.0%	11.8%	10.6%	13.5%	14.3%
学習成果／教育効果	19.4%	15.7%	16.7%	13.8%	13.6%	13.7%	23.5%	29.4%	17.0%	19.2%	18.2%
キャリア教育／キャリア支援	0.0%	0.0%	11.1%	10.3%	13.6%	19.6%	3.9%	5.9%	4.3%	0.0%	7.1%
学生支援／ピア・サポート／教職協働	8.3%	15.7%	24.1%	17.2%	18.2%	9.8%	7.8%	9.8%	17.0%	17.3%	14.7%
学習意欲・動機／中途退学防止	11.1%	2.0%	5.6%	10.3%	9.1%	9.8%	7.8%	5.9%	17.0%	15.4%	9.3%
発表件数総数	36	51	54	58	44	51	51	51	47	52	495

計10回の発表件数総数に占める比率

- ・ライティング/スキルズ＝21.6%
- ・教育方法＝20.2%
- ・プログラム内容/授業デザイン＝17.4%
- ・学士課程教育＝18.0%
- ・学習成果/教育効果＝18.2%
- ・学生支援/ピア・サポート/教職協働＝14.7%

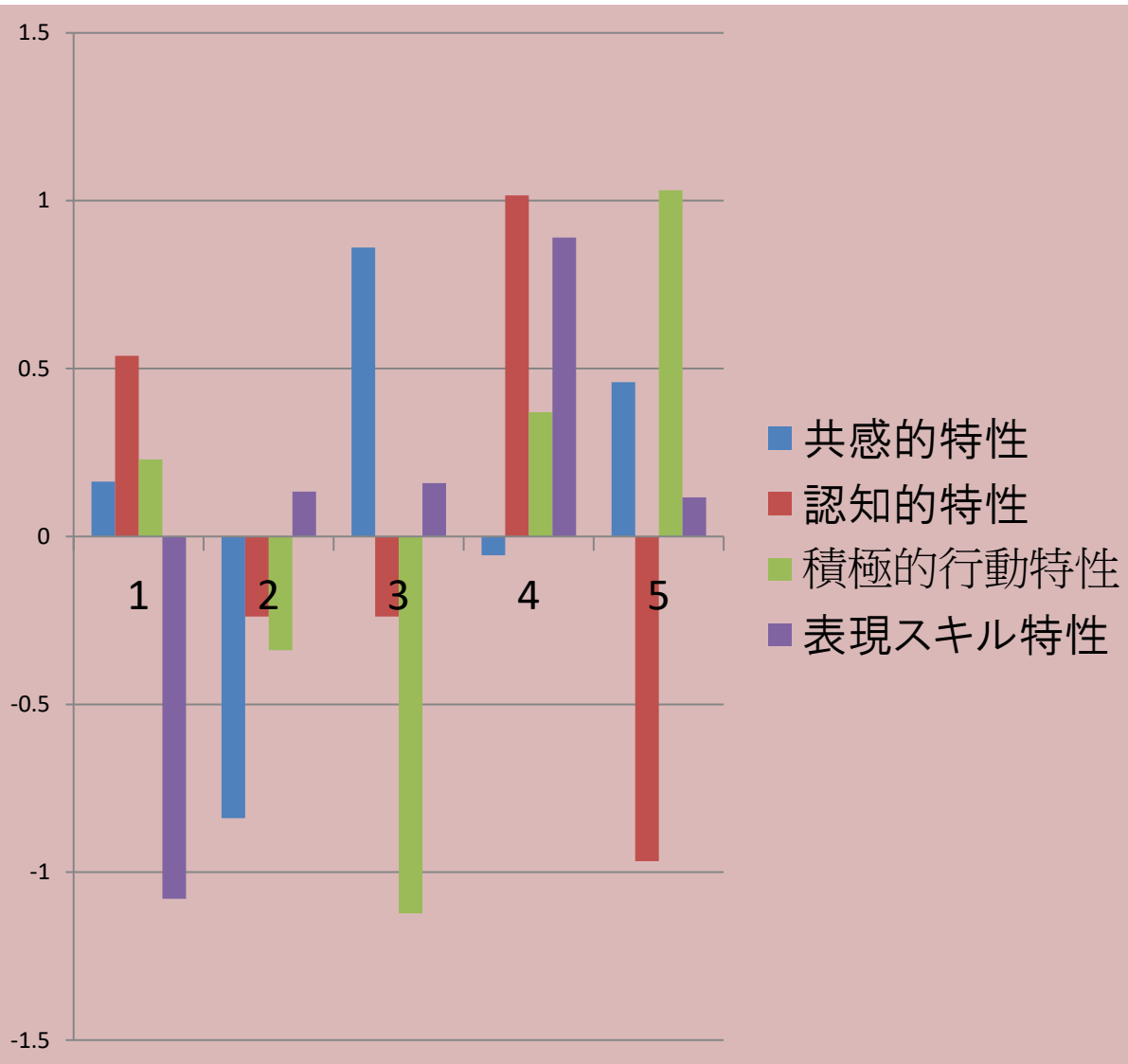
正課内から正課外での学生支援等に対象範囲が拡大してきている。

高大接続/入学前教育＝14.3%と一定数の関心がある一方で、入試に関する発表は少ない。初年次教育と入試の関連性は会員の大きな関心テーマとは見受けられない。

杉谷祐美子作成表 「初年次教育研究の動向と課題：初年次教育学会における研究活動を中心に」 『進化する初年次教育』 2018年16頁より再掲

**高大接続の基本情報となる新入生の
プロフィール：2013年データと
2017以降JSAAP継続調査から**

2013新入生の自己肯定評価によるクラスター分析結果と 学生タイプの特徴



- タイプ1：表現的特性に相対的に自信無
大学での授業でプレゼンテーション、文章表現スキルを習得すれば自信を獲得か
- タイプ2：表現的特性のみ相対的に自信有
- タイプ3：共感的特性と表現的特性に相対的に自信有
- タイプ4：共感的特性以外全てに相対的に自信有
- タイプ5：認知的特性に相対的に自信無



こうしたデータをベースにしながら初年次教育
内容の見直しや強化にも活用

山田礼子「米国の高大接続から見た日本の課題」63頁

図3を再掲

JFS（新入生調査） 2017～2021データの概要

- 2017から2021まで参加した公立・私立大学の新入生データ
- 2020年はコロナ禍により1校のみが参加しているため除外
- 国立大学が2017年には参加しているが、それ以降は参加していないため除外
- 2017年 4校 1481人 2018年 4校1569人 2019年 4校1730人 2021年 3校 1432人

	2017	2018	2019	2012
下位の方	15.5	18.9	18.1	17.3
中の下くらい	18.8	19.2	19.0	21.6
中くらい	25.0	23.8	23.7	24.0
中の上くらい	24.7	23.3	24.8	21.8
上位の方	11.9	10.3	10.6	11.7
その他（わからない、覚えていない、など）	4.1	4.4	3.7	3.6

	高3時1週間あたりの活動時間：インターネットの利用								合計
	0時間	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	
2017	4.3%	13.3%	21.4%	18.0%	17.4%	9.6%	5.6%	10.3%	100.0%
2018	3.2%	12.3%	19.3%	18.4%	17.5%	9.7%	6.8%	12.7%	100.0%
2019	2.9%	10.8%	19.1%	20.2%	18.8%	9.6%	4.7%	13.9%	100.0%
2021	1.8%	10.0%	18.8%	17.6%	18.1%	11.6%	6.5%	15.6%	100.0%
平均	3.0%	11.6%	19.5%	19.0%	18.0%	10.1%	5.8%	13.0%	100.0%
								カイ2乗検定 p<.000	

- 受験前の高3時の授業外学習時間は0～1時間が30%前後
- 受験前の高3時の友人との交際時間も16～20時間以上が17%前後
- 受験前の高3時のインターネットの利用時間は16～20時間以上が2018年以降18～20%前後に上昇

高校3年時 での経験

• 大きく変化しているとはいえないが、アクティブな学習行動は若干上昇

• 態度や経験上での高大接続のベースとなる経験と位置づけられるのでは？

高校3年時の経験平均値	2017	2018	2019	2021
授業中、質問した	2.28	2.31	2.30	2.33
自分の意見を論理的に主張した	2.03	2.04	2.08	2.16
インターネット上の情報が事実かどうか確認した	2.12	2.16	2.26	2.36
困難なことにあえて挑戦した	2.55	2.54	2.50	2.51
研究に関する記事や論文を読んだ	1.61	1.60	1.64	1.66
授業以外に興味のあることを自分で勉強した	2.11	2.10	2.09	2.15
自分の失敗から学んだ	3.09	3.01	3.02	3.01
留学生と交流した	1.53	1.51	1.58	1.50
授業に遅刻した	1.41	1.41	1.40	1.36
やるべきことの多さに圧倒された	2.56	2.53	2.53	2.46
ゆううつで、落ち込んだ	2.30	2.23	2.28	2.22
スクールカウンセラーなどに相談した	1.14	1.14	1.14	1.20
学校に行きたくないと思った	1.90	1.87	1.93	1.95

1:全くなかった 2:あまりなかった 3:時々あった 4:ひんぱんにあった

在学中に身につけるべき力

- 4年間で大きな変化はない。
- ほとんどの項目がとても必要（4点）とある程度必要（3点）の間で回答
- 専門的知識（分野）だけでなく、汎用的なスキル・能力を身に付ける必要があると認識
- 高大接続においてもこうした汎用的なスキル・技能がどう高校時代に身に付いているかを把握し大学でのカリキュラム上での接続を考えた総合的初年次教育を提供する必要性がある。

	2017	2018	2019	2021
一般的な教養	3.75	3.76	3.74	3.73
分析や問題解決能力	3.64	3.63	3.63	3.64
専門分野や学科の知識	3.73	3.73	3.72	3.70
批判的に考える能力	3.06	3.07	3.10	3.08
異文化の人々に関する知識	3.20	3.23	3.25	3.27
リーダーシップの能力	3.41	3.41	3.40	3.37
人間関係を構築する能力	3.73	3.70	3.72	3.69
他の人と協力して物事を遂行する能力	3.69	3.67	3.67	3.65
異文化の人々と協力する能力	3.29	3.31	3.32	3.32
地域社会が直面する問題の理解	3.30	3.30	3.27	3.30
国民が直面する問題の理解	3.27	3.26	3.25	3.26
文章表現の能力	3.65	3.63	3.64	3.63
プレゼンテーションの能力	3.61	3.59	3.59	3.60
数理的な能力	3.07	3.02	3.07	3.08
コンピュータの操作能力	3.55	3.55	3.58	3.58
卒業後に就職するための準備の程度	3.78	3.74	3.75	3.73
コミュニケーションの能力	3.80	3.78	3.80	3.78
時間を効果的に利用する能力	3.70	3.67	3.71	3.67
グローバルな問題の理解	3.29	3.28	3.29	3.26
外国語の能力	3.42	3.41	3.41	3.35
創造性	3.49	3.47	3.48	3.47
情緒面での安定度	3.52	3.48	3.51	3.55
ねばり強さ	3.65	3.63	3.60	3.61
チャレンジ精神	3.69	3.66	3.62	3.63
自己分析力	3.66	3.65	3.64	3.68
情報収集力	3.65	3.62	3.65	3.66

高大接続と初年次教育の関係

- 初年次教育が日本において普遍化してきた要因は？
 1. 進学率上昇にともなう学生の多様化への対応
 2. 高校と大学での科目や重視するレポート等の書き方の方法の差異の隙間を埋めるための方策
 3. 客観的学生調査データ等から把握する高校時代の経験等から大学への移行を円滑にするため
 4. 大学教育改革の一環として大学が「教育」と学修成果の可視化を実現するべく様々な方策を導入した結果として

高大接続と 初年次教育： 今後にむけて

- 高校時代の教科に関する学びの内容のみならず、汎用的なスキルや能力を如何に培ってきたかという視点から経験を把握することも重要
- 近年の初年次教育でのライティングの方向は、かつての形式的レポートの書き方からより実質的なライティングへと深化
- 他にもリーディングをかなり高度あるいは古典的テキストを利用しての読み方の醸成を重視
- その意味では、初年次教育をカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーを支える総合的な教育として捉え、設計していくことで、高校から大学への移行教育として機能させることが可能では？

参考文献

- 井下千以子「思考を鍛える初年次教育テキストの開発：アクティブラーニングによる授業展開」『進化する初年次教育』,2018年,世界思想社,126－136頁.
- 杉谷祐美子「初年次教育研究の動向と課題：初年次教育学会における研究活動を中心に」『進化する初年次教育』,2018年,世界思想社,8-19頁.
- 山田礼子「米国の高大接続から見た日本の課題」『進化する初年次教育』,2018年,世界思想社,56－66頁.
- 山田礼子「3つのポリシーと初年次教育の関係を中心とした分析」『初年次教育学会誌』 2018 第10巻第1号,89－98頁.

ご静聴どうもありがとうございました

ご質問は以下にお願いいたします

ryamada@mail.doshisha.ac.jp